

# 中条郷会誌

第14号

2026年3月19日発行

～ 悠久・胎内 明日への架け橋 ～

中条郷会事務局



〈桃崎浜荒川神社〉国登録有形文化財



〈桃崎浜文化財収蔵庫：模型和船、船絵馬(永宝丸・不動丸・八幡丸 天保13年)〉国指定重要有形民俗文化財

## 目次

- 学校も地域も笑顔で元気になる市内小中学校（9校）の取組  
.....胎内市教育委員会 教育長 中澤 毅
- わがふるさとー胎内市 賛 .....中条會津八一会 副会長 今村克治
- 乙がつながぐ、乙でつながる.....有限会社 乙まんじゅうや 久世俊介
- 中条郷会役員会の動向.....中条郷会事務局
- 編集後記 .....中条郷会幹事 石井 隆

## 学校も地域も笑顔で元気になる市内小中学校（9校）の取組

胎内市教育委員会  
教育長 中澤 毅

胎内市では、地域の宝物（自然や歴史・文化など）を最大限活用しながら、未来の胎内市を担う子どもたちの育成に力を入れています。その取組の一端を紹介します。

○**中条小学校**=4年生は中条祭りについて調べる中で「中条祭りをもっと盛り上げたい」という思いを強くし、自分たちで山車の花飾りづくりに取り組みました。その花飾りで華やかさを増した各組（神明組、西榮組、北組、本組、驛新組）の山車が各町内を巡る様子は、子どもたちの地域愛をさらに高めてくれたようです。

○**胎内小学校**=保護者・地域住民の協力を得て、学校協を流れる柴橋川でのホタル生息が復活できたことをきっかけに、毎年6月には学校とPTA、地域とが連携した「夕涼みホタル祭り」が、屋台等の出店などを含め盛大に行われています。子どもたちはイベントを大いに楽しみながら、ホタル舞う地域の自然をこれからも大切にしたいという思いを強くしています。

○**きのと小学校**=地元の「きのと山桜復活の会」が乙宝寺と県少年自然の家の間の藪を刈り払い、桜の植樹に取り組んでおり、6年生も卒業記念として植樹に参加しています。「～になりたい」などの願いを書いた木札を脇に立てて、桜が成長した頃には自分の夢を叶え、地域を支える力になりたいという思いが一人一人、一本一本から伝わってくるようです。

○**築地小学校**=かもめ会（村松浜漁業者の会）や保護者の協力を得て、毎年5・6年生の地引網体験が村松浜で行われます。大量の獲れた魚に子どもたちは大歓声。地域の方々が大きな鍋で料理してくれた漁師汁を子どもたちは浜辺で味わい、ふるさとの魅力を体全体で堪能することができました。

○**黒川小学校**=飛鳥時代に燃える水（原油）を天智天皇に献上したという『日本書紀』の記録をもとに、毎年7月1日に「黒川燃水祭」がシンクルトン記念公園で行われ、古式に則った伝統儀式などに6年生と4年生が参加しています。地域の貴重な歴史遺産を直接体験して学び、次世代につなぐ意識が育っています。

○**中条中学校**=「私たちには、社会を変え世界を変える力がある」を経営理念に生徒が中心となって「まちづくり会社中条中学校社」を立ち上げ、5年目となります。熊野若宮神社の参道で400年続く三八市の活性化のために、本町商店街の皆さんと連携して始めた「おいでよ！本町マルシェ」の催しには、今年も多くの方が訪れ、賑わいを創出することができました。

○**乙中学校**=「お世話になっている地域のために何かできることはないか」という生徒の思いや地域の課題を受けて、地域の皆さんの協力のもと、紅はるか（さつまいも）の栽培・販売と収益の社会福祉団体への寄付、桃崎浜海岸清掃、ミズバショウ群生地清掃活動等々様々な地域貢献活動に取り組むなど、全校で「挑戦！交流！貢献！」を合い言葉に活動を進めています。

○**築地中学校**=全校朝会で「築地祭り」に参加する生徒が、太鼓とお囃子のリズムに合わせて華麗に舞う伝統の獅子舞を披露しました。また祭り当日は3年生が親子で制作した竹灯籠が、弥彦神社の境内に飾り付けられるなど生徒一人一人の思いや行動が、祭りの盛り上げに一役買うことができました。

○黒川中学校= 3年生が地域の方々を招待して「黒川堪能日帰りバスツアー」を開催しました。樽ヶ橋など黒川地区の魅力を紹介するツアーや、マコモダケ・キクラゲ等の特産食材を使った黒川堪能バイキングなどで参加者をもてなし、黒川地区の魅力発信と地域活性化に大いに貢献しました。

以上のように地域の方々と一緒に学び活動している胎内市の子どもたちは、これまで以上にふるさとを愛する心が醸成され、たくましく、そしてしなやかに成長していると思います。

結びに、会員同士の親睦を通してふるさと胎内の発展を願う中条郷会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。



中条小 中条祭り山車巡行



胎内小 夕涼みホタル祭り



きのと小 きのと山桜植樹



築地小 地引網体験



黒川小 黒川燃水祭



中条中 おいでよ！本町マルシェ



乙中 ミズバショウ群生地清掃



築地中 築地祭り・獅子舞披露



黒川中 地域の魅力ガイドツアー

## わがふるさと一胎内市贅

中条會津八一会  
副会長 今村克治

はじめに

厳密には表題の中へ「第二の」と入れるべきかも知れない。というのは私自身昭和18年、現在の新潟市江南区（亀田郷）に生をうけたことにある。思い起こせば見渡す限り水田が広がる彼方には飯豊連峰や二王子岳、五頭山脈があり、いつしか山はあこがれの対象となった。そして旧中条町の協和ガス化学へ就職したのは昭和36年4月である。当時日本は高度経済成長への入口で、新潟県は天然ガス化学工業の拠点となっていた。以後住民として65年の歳月が流れたがその思いの一端を綴ってみたい。

〈ことば〉

新潟県は南北およそ300Kmにおよぶが、越後平野の大半は阿賀野川と信濃川によって形づくられた。大面積の県としては便宜上、上、中、下越に分けている。私はその各地域の言葉づかい（訛り）や方言の違い（分布）に興味がある。同じ下越でも加治川以北は東北弁が濃くなる。工業高校へ入学したときのこと、中条から来たHという同級生の訛に驚いた。初めて耳にしたからである。しかも偶然とはいえ担任教師が彼と同郷で、その丹呉という苗字も珍しかった。

方言には地域に密着した温か味がある。とくに子どもたちの会話は聞いていて可愛いものだ。

「こーうえ」あるいは「こわえ」これは「辛い、難儀、しんどい」であり、肩車を「くびこ」ということも知った。ちなみに筆者の育った亀田郷では肩車を「でんぐるま」と称したので、当然息子たちへ使った。今にして思えば父親のルーツ或いは紋章とでもいべきものを伝えていたのだ。また胎内市とひと口に言っても、浜側と山手（旧黒川村）、その中間に位置する町部では語尾などに微妙な違いがある。

〈恵まれた自然環境〉

前述した山へのあこがれが実現したその有難さを身に沁みて感じている。私の住いは国道7号の山側にある旧俳諧山の団地だが、四季それぞれの風景は何にも勝る宝である。ことに春の到来は格別で樹木の芽吹きの色模様や豊かな山菜があり、裏山に来るウグイスの鳴き声を今日か明日かと待つことも楽しい。かくして季節はまわる。おそらく大自然の根底には壮大な音楽が流れているのだろう。

その流れの中で最も私の心を揺するの、早朝と夕方に響く蝸ひぐらし（カナカナ）の鳴き声である。

この家もわれら一代限りとなる。墓所はすでに新潟市（島）内に決めており、いずれそこで眠ることになる。とはいえ、私の魂は友人知人に恵まれて半世紀以上も過ごしたこのふるさとの地へ折々向かうだろう。

末尾に一句認め筆を擱く。

「ひぐらしとなりて故山に還りたし」

## 乙がつなく、乙でつながる

有限会社 乙まんじゅうや  
久世俊介

胎内市乙に生まれ育った私は大学進学で関東に出ました。そのまま就職をし、結婚を機に10数年前にUターン。現在は10代目の父が代表を務める有限会社乙まんじゅうやに勤めております。

私の地元乙は1300年近い歴史を持つ北陸の名刹『乙宝寺』を中心に古くより栄え、名水『どっこん水』の恩恵を受けて人々が暮らしてきた門前集落。そんな集落において乙宝寺門前にて222年前より参拝客や地元の方々に商売をさせて戴いているのが当店です。

そんな名刹の門前に在るからこそ当店は10年ほど前から『観光』のジャンルに力を入れて色々と取り組んでいます。

正直なところ県北・阿賀北の他のエリアと比較したときに「滞在時間の短さ」と「プレーヤーの少なさ」から観光地として勝負をしていくのはかなり厳しいな…とUターン当時は感じました。

しかし、乙という地域を胎内市だけにとらわれず県北エリアに広げて見てみると実は村上市・関川村の温泉郷、そして胎内リゾートとすべての場所から車で約20分圏内の好立地に在ります。そういったことから各地へ宿泊に行く方々が道中に立ち寄れる最高の“旅の中継地点”という立ち位置を目指すことができれば、予算がなくともソフト面で工夫するだけで県北観光に欠かせない地域となることができると考えました。

そこで乙宝寺観光ガイドや着地型観光企画を用意したり、同じ乙の米澤屋さんと一緒に“寺弁（てらべん）”という食のコンテンツを作成したりしてツアーなどに使ってもらえるよう準備をしてきました。現在では県内外の旅行会社や地域の団体ツアー・市・県などの行政企画のツアーなど、少しずつですが利用される機会が年々増えてきました。

また、10年ほど前から地域有志で『きのと山桜復活の会』という会を立ち上げ、地域の子どもたちを中心に乙宝寺境内裏で桜の植樹活動を行なっています。毎年きのと小学校の6年生に卒業記念植樹という形で桜を植えてもらい、現在780本ほどの桜を植えました。（目標は1000本です）クラウドファンディングなども行ない、子どもたち以外にも北海道から鹿児島まで200名以上のオーナーの方にも桜を植えていただきました。

この活動も観光という目線での将来的な桜の名所化、それによる観光交流人口の増加という狙いと発展過程でのオーナーの来訪・整備などを含め関わる人を増やすことによる関係人口の増加を狙っています。そして何より子どもたち自身が故郷に更なる興味関心、ひいては誇りを感じてもらえる活動になればと会員やご協力いただいている各関係者の皆様と日々活動をさせて戴いております。

初年度に植えた山桜などは花を咲かせ始めているので、春に乙宝寺を訪れる機会がございましたらご覧いただきたいと存じます。（六角堂の脇の道を奥に進んでいった先に植栽地がございます。）

乙地区には素晴らしいエネルギーで様々な活動をされている諸先輩方がいらっしゃる中で、私に関してはまだまだうまくいかない事も多々ありますが、出来る事を亀の歩みの如く一步ずつ進めていきたいと考えておりますので、ぜひお近くにお越しの際は乙にもお立ち寄りいただけましたら幸いです。

## 中条郷会役員会の動向

\* 2025年6月～2026年1月の期間に3回実施

### 1回目

◆日時 2025年6月18日(水)

◆討議、確認、決定事項

#### (1)収支報告について

中条郷会の収支について出席役員全員で会計内容に誤りがないことを確認した

#### (2)中条郷会役員の任務分担を確認した

### 2回目

◆日時 2025年9月29日(月)

◆討議、確認、決定事項

#### (1)2026年中条郷会新年総会の日程と開催場所について検討を行い、下記内容で決定した

##### ①開催日時

2026年3月19日(木)午後6時30分

##### ②開催場所

新潟グランドホテル・悠久の間(3F)

#### (2)中条郷会会誌(14号)の打ち合わせを実施し原稿寄稿者、掲載内容等を検討した

#### (3)新役員の選出

胎内市担当役員として、松浦博之さんを選出した

### 3回目

◆日時 2026年1月29日(火)

◆討議、確認、決定事項

#### (1)新年総会開催にむけた最終調整

案内状文面内容と発送時期の確認

胎内市広報誌への事前広報依頼

余興・出店店舗の確認

PRビデオの上映等

#### (2)会報誌の発行について

胎内市への依頼～と会員各位へ胎内市の情報を提供するための会報誌14号を、

胎内市ホームページへ掲載依頼

## 編集後記

まだまだ寒さが厳しい時期ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私事で恐縮ですが、実は1月末に除雪作業でギックリ腰をやってしまいました。

出勤前の寒い朝で急いでいたこともあり、起きてすぐに体が硬い状態のまま除雪したことが原因のようでした。

ギックリ腰の予防は、日常の動作・姿勢が大事とのこと、どうか皆様も準備運動をしっかり行い、日常の行動に十分注意をされ、いつまでも元気で健康な生活をしていただきたいと思います。

さて、中条郷会誌も今回で第14号になります。

今回、ご多忙中にもかかわらず原稿を寄稿して頂きました方々には本当に感謝を致します。

この場を借りて感謝とお礼を申し上げます。

今後も会員の皆様に胎内市の魅力を発信、紹介できますよう、さらにパワーアップした内容でお届けできるよう会誌の内容充実を図ってまいる所存であります。

どうか会員の皆様にあリましても是非情報提供のご協力をお願いいたします。

会員皆様の益々のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。

《情報提供先・寄稿先は中条郷会事務局(胎内市商工観光課)》

・住所 〒 969-3693 新潟県胎内市新和町2番10号

・TEL 0254-43-6111 ・FAX 0254-43-7392 中条郷会幹事 石井 隆